

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793200078		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター守口大日 認知症対応型共同生活介護 (1階 萌)		
所在地	大阪府守口市大日町4-27-10		
自己評価作成日	平成24年11月19日	評価結果市町村受理日	平成25年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様の尊厳を自立を守ること、制止するような言葉は使わず、お客様のペースで過ごしていただくことを大切にしています。また、現有能力を生かすことや、見つけ出せるようにケアし、自立支援の為のお手伝いをさせていただきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2793200078-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年12月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、ユニット名の「燦＝輝くように」と「萌＝草木の芽が伸び始めるように」を理念に掲げ、その人らしい生活を大切に支援しています。自治会に加入し、地域の行事への参加や子ども見守り隊の役割を担う事で、地域住民の理解や関心が深まり、子ども達や地域の方が出入りするなど交流が広がっています。利用者一人ひとりのできる事や能力を活かす事を念頭に置いて、希望を聴き取ったり、アセスメントや日々の日誌等の充実が図られ、職員同士の情報共有や連携の強化に繋がっています。介護度の高い利用者がある中、外出機会を多く設け、車椅子の方も積極的に戸外へ出るよう支援しています。小人数での遠足や送迎バスのある店を選んで外食に出かけるなど、どの方も生き生きと暮らしてもらえるよう様々な可能性を職員間で検討し、常に向上心を持ち取り組んでいるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の理念を各ユニットごとにつくり共有し、実践している	設立時に職員で考えて付けたそれぞれのユニット名に込められた思いを言葉に表し、理念として掲げています。カンファレンスで理念の内容や具体的な支援を挙げて話し合い、意識付けし、実践につながるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しており、町内会の広報から、地域の情報が入ってくる。地域行事に出来るだけ参加し、散歩にでかけ近隣の方と接することができるよう支援している。	自治会に入会し、町内広報誌で行事などの情報を得ています。パターゴルフや盆踊り、どんと焼きなど出来る限り利用者と一緒に参加しています。散歩の際は子ども「見守り隊」のベストを着て出掛け、地域の一員としての役割を務めています。小・中学校の職場体験も毎年受け入れ、地域の理解や交流が深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の「見守り隊」に参加し活動を継続している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、お客様、ご家族様、オーナー様、地域の方から意見を頂きホームの運営に活かしている	家族、提携医や看護師、薬剤師、ケアマネジャー等の参加があり2ヶ月に一回開催しています。ホームの状況報告を行い、家族会を兼ねて行った際には意見を募っています。会議内容と開催案内は毎月の請求書と一緒に家族に送付しています。	最近は地域の参加が難しい状況のようですが、日程を考慮するなどして、地域包括支援センターや地域の方と、家族の同時参加が実現できれば、会議内容の充実にも繋がるのではないのでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時には、電話連絡を行ったり、市の担当者からはメールで連絡がある	必要書類の提出や手続き等で、管理者が直接役所へ出向いています。制度上の疑問点や相談があればその都度電話し、市からは研修案内が送られています。2ヶ月に一回開催されるグループホーム交流会には市の担当者と地域包括支援センターの職員が参加し、情報交換を行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ホーム内にて身体拘束廃止委員会を設置し、研修を行っている	法人主催の身体拘束についての研修を受けています。ホームは玄関、エレベーターは開放され、ユニットのみ施錠していますが、出たい様子があれば職員が付き添って出ています。ユニット内のベランダは自由に出入りしたり、散策できるようにしています。カンファレンスの中で、言葉の拘束についても話し合い、拘束の範囲について理解を深めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を持ち、定期的にホーム内で「高齢者虐待・虐待防止」について研修を行っている		

ニチイケアセンター守口大日（1階 萌）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が持てるよう努力をしているが、全スタッフはまだ周知できずにいる。少しずつ研修で周知していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書と契約書をすべて読み上げ、十分に説明し理解を得ている。また、何らかの変更があった場合には必ず説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時での家族様の意見を聞く機会を設けている。その他面会時にも都度状況報告し、意見を聞いている	家族の面会時や電話で希望を聴き取り、介護計画更新時には担当者が本人・家族に要望を聞いています。外出を多くして欲しいとの要望を受け、カンファレンスで案を出し合い、外気浴の時間を積極的に設けるようにしています。年一回の法人アンケートは結果を家族に報告し、改善事項の取り組み状況も説明しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議ホーム内研修時でのスタッフからの意見の収集や必要時には、個人面談を行い聞く機会を設けている。	毎月の会議では職員より積極的に意見が出され、気がかりな事があれば管理者が事務所で個人的に聴き取りをしています。定例の個人面談の後は、意見をまとめてユニット会議で話し合い、連携やチームワークを図ることによって運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、キャリアアップ制度、資格手当等がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修として、1ヶ月1回以上は常勤スタッフが主体となり研修を行い、研修を行う側も受ける側もスキルアップを図っている。また、社内、社外の研修を受ける機会もある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二ヶ月に一回グループホーム交流会にて他のグループホームとの交流、情報交換共有を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期のアセスメント時には、話しやすい雰囲気作りと安心感を与えられるよう特に配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望を聴きながらも、本人の想いを優先できるよう関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り幅広いサービスをお伝えしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様を家族同然に想い、家事を一緒にしたり、散歩に行ったりし、日常生活を送っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様のご家族様とも信頼関係を築くように努力しお客様に出来ることをしていただきADL保持に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が大切にしてくるもの等を把握し関係が途切れないように支援し、努めている	利用者の友人が遊びに来られた際は、話す場所を選んでもらい、プライベートな空間を用意しています。リビングを選ばれた時は話の仲介をして和やかに過ごしてもらえる様配慮しています。また手紙のやり取りの援助や、住んでいた家を見に行ったり、神社参りの習慣を継続する支援も行い、利用者の懐かしい思いや馴染みの関係を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士がお話出来る様に席を近くにしたり、レクリエーションを一緒にしている		

ニチイケアセンター守口大日（1階 萌）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来る限り、必要に応じ、努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様それぞれの思いや希望に添ったケアが出来るよう、意向を把握に努めている。困難な場合もなるべく本人本意に検討している	入居時のアセスメントで生活歴や希望を聴き取り用紙に記入しています。入居後は様子を観察しながら更新日を色分けして随時追記し、分かり易くまとめています。意思表示の難しい方は家族に聞いたり、表情で把握し、普段の会話で聞いた言葉をシートにそのまま記載するなど、本意の理解に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お客様との会話や、個人記録などから、その方のこれまでの生活などを把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーションや状態の観察により、それぞれのお客様の現状を把握できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りとアセスメント、モニタリングで小さなニーズにも気づき、サービス担当者会議にて意見アイデア等反映し、ケアプランに添ったチームケアを心がけている	詳細なアセスメントを基に計画を立て、3か月ごとにサービス担当者会議を開き、全職員の意見を取り入れながらモニタリングを行っています。計画は3～6か月ごとに見直し、状況に応じた計画になるよう努めています。日々の記録は記号表記で計画と連動したものとなっており、常に計画を意識しながらケアするよう取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや、個人記録への記入、職員間での情報共有により、それぞれのお客様のそのときの状態に適したケアが出来るよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じた様々なニーズに対応できるよう、柔軟な支援を心がけている		

ニチイケアセンター守口大日（1階 萌）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのイベントに参加したり、地域の店を利用したりし、外出の機会を増やし、お客様が「この場所なつかしいわ」等お客様の活性化に繋げている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診でない時でも本人及びご家族の希望があれば、かかりつけ医と連絡をとり、適切な医療を受けられるよう支援している	入居時に今までのかかりつけ医が継続可能な事を伝えています。協力医は運営推進会議にも出席し、24時間体制となっており、月二回の往診状況は介護記録に記載しています。専門医の受診は家族対応ですが、情報の共有が密になるよう配慮しています。週一回の訪問看護、その他必要時には訪問歯科や訪問マッサージも受診支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時だけでなく、普段から気になることがあれば相談し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは、情報交換や相談できるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の希望に添い、スタッフ、かかりつけ医、訪問看護師間で話し合い支援に取り組んでいる	終末期ケアの指針があり、契約時に説明しています。ホームとして過去にターミナルケアの経験が数名あり、重度化した際に家族が希望すれば医師も含めた話し合いを設け、できる限り意向に添った看取りの支援をしていきたいと考えています。職員には医療連携の説明や手順書を用意し、研修も行い、前向きに取り組む体制が整えられています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的研修を行い、マニュアル等も決まった場所に置き、全ての職員が対応できるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的訓練を行い、マニュアル等も決まった場所に置き全職員が対応でき、地域と普段から交流を深めることで協力体制を築けるよう心がけている	年二回消防訓練のうち、一回は消防署の指導の下で行っています。避難誘導や消火、通報訓練を行い、独自の訓練とともに夜間想定で行い、非常用袋を目に付く場所に用意しています。今後も地域との関係性を重要視し、協力体制に繋げていきたいと考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様一人一人に合わせて声掛けするよう、スタッフ全員が心がけながら対応している	職員は接遇研修を受講し、制止のない声かけや、名前の呼び方に失礼がないよう意識して接しています。特に排泄時にはトイレのカーテンや声かけに配慮しています。不適切な対応があれば職員同士で注意し合い、会議では相手の立場を考えた具体的な対応を挙げ、尊厳について話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の行動に添って日常生活を送れるようにスタッフが声掛けし一人一人に合わせた支援をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全てのお客様に対してペースに合わせた支援をスタッフ全員が考え、それを実行している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日のコーディネートなどを本人様と一緒に考え、その人らしい身だしなみやおしゃれを楽しめるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全てのお客様の好みなどをスタッフ全員が把握できるように努力している。配膳や食器の片付けなどを利用者とスタッフが一緒にしている	調理担当者が事前に利用者に希望を聞いて献立を立てています。食材は発注に加え、足りないものを利用者と一緒に買い物に出ています。食器拭きや味見、盛り付け、車椅子の方もお盆拭き等、準備に参加してもらっています。状態により食事形態を工夫したり、時にはおやつ作りやホテルバイキング、少人数での外食を取り入れ、食事を楽しめるよう配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスがとれた献立作りから、水分摂取の声掛けなどを、その日のお客様の状況に合わせて行動している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けし、施行していただく。必要な方には綿棒や歯ブラシにて介助し口の中の清潔保持に努めている		

ニチイケアセンター守口大日（1階 萌）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2時間おきのトイレ誘導でオムツの使用量減に努めている。お客様の様子や表情を汲み取り、声掛け及びトイレ誘導を行い排泄の失敗がない様、きめ細やかな対応を心がけている	日中は基本的にトイレでの排泄を支援しています。タイミングに合ったトイレ誘導で紙パンツから布パンツになり、皮膚の状態が良くなった方もおられます。尿意のサインや便意の様子に早期に気づいて誘導することに心がけ、夜はポータブルトイレやオムツなど一人ひとりに合わせた物を選択し、排泄の自立へ向かえるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	豊富な食材を使って消化吸収の良いメニューを心がけ、便秘予防の為食物繊維にも留意している。かつ、ラジオ体操や散歩での筋肉や内臓を柔軟に保つ努力をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のお客様の体調や皮膚の状態に気を配り、無理なく気持ちよく入浴を楽しんでいただけるよう支援している。声かけを怠らず、お客様が安心して入浴していただける環境を作る努力をしている	入浴は週に3~4回、午後~夕方までを目途に入ってもらっています。希望があれば入浴日以外にも対応できるよう努めています。お湯は一人ずつ入れ替え、浴槽の端にスペースがある為介助し易くなっており、二人介助の方にもゆったりと入ってもらっています。時には柚子湯やしょうぶ湯を取り入れています。拒否傾向の方には声かけの日を変えるなど工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室環境を整え、お客様の趣味の小物やぬいぐるみ等で、穏やかに過ごせる部屋作りをしている。寝具類は日々洗濯をし日光に当て清潔を保つよう心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が、全お客様のすねての薬を理解するように努めている。薬ファイル、説明書を用い、スタッフが相互に確認しあえる体制をとっている。日々申し送りお客様の変化を報告し合い、全スタッフが周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや調理の盛り付けをお願いしたり、車椅子のお客様にはテーブル上でのお盆拭きや洗面台でのお米洗いお手伝いをして頂くことで張り合いのある生活ができるよう支援している。また輪投げやパズル等のゲームも楽しんでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフ付き添いのもと車椅子や徒歩での散歩を日々行っている。また年に数回の花見等の遠足も行いご家族様との外出や食事を楽しんでいただけるようレクリエーションの支援をしている。買い物に同行したり、乗り物を使っての遠出の機会を設けることで楽しんでいただける様努めている	季節に関わらず毎日交代で散歩に出ることを日課としています。車椅子の方も散歩に出掛け、テラスでの外気浴や買い物にも出掛けています。年に数回公共交通機関を利用して家族も一緒に花見などの遠足に出掛けたり、送迎バスのあるホテルの食事を行事に組み入れるなど工夫しています。職員で案を出し合い外出する機会を増やせるよう取り組んでいます。	

ニチイケアセンター守口大日（1階 萌）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その都度、ご希望がある時など、一緒に買い物などをして使用できるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話や、手紙のやりとりが出来るよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるように季節の花を飾ったり、心地よく過ごせるような空間を提供できるよう努めている	リビングの採光はカーテンで調節し、加湿器が多く設置され温湿度計で空調を整備しています。随所に季節の花が飾られ、好きな歌や落ち着いた音楽などBGMにも工夫されています。畳の間にはぬいぐるみや家具を飾り、利用者の状態により机の配置を変えたり、廊下にソファを置いて好きな場所で寛ぐことのできる空間づくりに配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時や気の合ったお友達と一緒に過ごせる空間を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた家具や鏡など、ご家族と相談しながら快適に過ごせるように工夫している	入居時に家族と相談し、利用者の使い慣れたものや好きな物を持ってきてもらい、馴染みの部屋になうようベッドの位置などレイアウトも一緒に考えています。タンスや鏡台、家族の写真や色紙、仏壇、などが持ち込まれ、本人の安心できる居室となっています。また夜は濡れタオルを干し、乾燥を防止しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の場所を明確にし、キッチンでは調理を一緒にするなどし、安全に生活できるよう支援している		